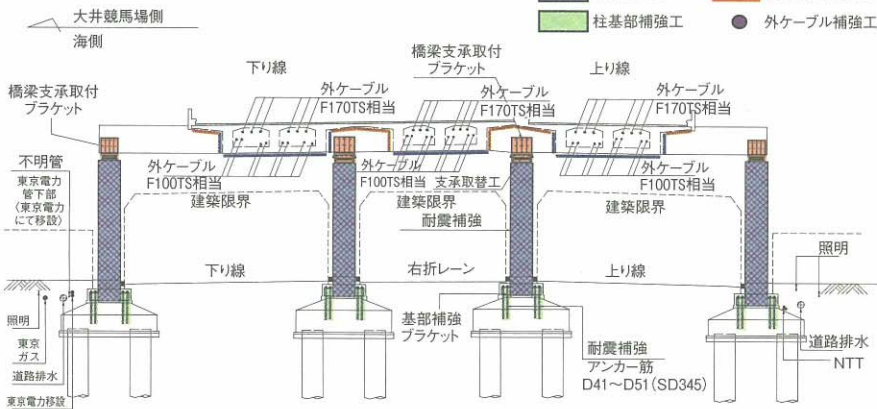


支承受替・耐震補強分類 (4橋脚タイプ)

正面図

凡例

- 支承受替工
- 鋼板巻立て工
- 柱基部補強工
- 炭素繊維補強工
- 剥落防止塗装工
- 外ケーブル補強工



橋脚も一部新設

橋脚も再補強を行う。既に9ミ厚・SM400の鋼板巻立てにより補強されているが、構造系の見直しに当たり、多くの橋脚で9ミ鋼板を撤去し、13ミ厚・SM570の鋼板を改めて巻き立てる補強も行う。加えて基部の曲げ耐力不足が懸念される橋脚については、ブラケットを設けアンカー筋を基礎梁部に打ち込む

9ミリから13ミ厚に再補強

連結工はPC外ケーブルで補強

補強も施す。ゲルバーの連結は、無収縮モルタルを流し込み、内部の鋼製も除去せず一体化させる(供用しながらの施工のため、西日本高速の長崎道鈴田橋のように該当部を断ち切ることができない。鋼沓はアルカリ性のモルタルに包まれるため腐食は進まないとの判断)。また、そつた上で全体構造として適切なものにするため箱桁内に新たにPC外ケーブル(エスイー製)を設置して補強する

(図) 但しゲルバー部は損傷によりコンクリートが劣化したり、埃が溜まったりして、このままでは付着が取れない。このため清掃が必要になるが遊間が狭く通常のケレン工はかなり難しい。そのためWJによるはつり、表面処理も含めて方法を検討している。また、PC外ケーブルを設置するため削孔も鉄筋や既存のPC鋼棒を傷つけないように、WJによる削孔も含め検討を進めている。